

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	24-011	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Combined effects of smoking and alcohol consumption on the risk of liver cancer according to metabolic syndrome: A nested case-control study in South Korea メタボリックシンドロームによる肝臓がんリスクに対する喫煙とアルコール摂取の複合的な影響：韓国におけるコホート内症例対照研究 (nested case control study)		
執筆者		
Bui TT, Park E, Kang HY, Oh JK.		
掲載誌		
Int J Cancer. 2024 Aug 15;155: 654-665. DOI: 10.1002/ijc.34935		
キーワード		PMID
アルコール、喫煙、交絡、肝臓がん、メタボリックシンドローム		38533737
要 旨		
背景： タバコとアルコールは相互的に作用して肝臓がんのリスクを高める可能性があるが、これは他のリスク要因によって変化する可能性がある。メタボリックシンドローム (MetS) の有病率は増加しているが、MetSによる肝臓がんへの複合的な効果は不明である。そこで、喫煙と飲酒の肝臓がんリスクに対する複合的な効果を評価するために、コホート内症例対照研究 (nested case control study) を MetS 別に層別化して行った。		
方法： 韓国国民健康保険公団の調整後データベース (N = 5, 545, 835) を使用した。2009 年から 2019 年の間に全国の一般健康診断に参加した 15, 352 人の肝臓がん患者とマッチさせた対照群 92, 112 人を解析した。喫煙と飲酒による肝臓がんのリスクは、条件付き多変量ロジスティック回帰を用いて推定した。喫煙と飲酒の要因間の加法および乗法の相互作用を解析した。		
結果： 男性では、飲酒も喫煙もする群は、飲酒も喫煙もしない群と比較して肝臓がんのリスクが有意に高かった (調整オッズ比 (aOR) = 1.61、95%信頼区間: (1.50, 1.72))。軽度～中程度の飲酒群 (0.1～28 g/日) と重度の喫煙群 (> 20 箱-年) の間に、加法スケールで相互作用が認められた。相互作用による相対過剰リスク = 0.34 (0.16, 0.51)、寄与割合 = 0.22 (0.11, 0.33)、相乗指数 = 2.75 (1.85, 3.66)、乗法スケール、つまり積項 (product term) の aOR = 1.28 (1.11, 1.49) であった。MetS のみのサブグループ解析では、軽度～中程度の飲酒群と軽度～中程度の喫煙群の間にも加法相互作用があった。女性では、軽度～中程度の飲酒群と非喫煙群は、非 MetS のサブグループで肝臓がんリスクと負の関連があった。		
結論： 総合的な健康促進プログラムでは、飲酒も喫煙もする男性をターゲットとするべきである。特に MetS の男性では軽度～中程度の飲酒者や喫煙者も含むべきである。		